千葉県南房総市

埋蔵文化財発掘調査報告書

岡本城跡試掘確認調査報告書

平成３１年３月

南房総市教育委員会

序　文

南房総市は、房総半島南部に位置する面積230.12㎢、人口約4万人の市です。市域の北側には県下最高峰の愛宕山(標高408m)をはじめ、富山(標高349m)や伊予ヶ岳(標高336m)などの緑濃い山々が連なり、他の三方は東京湾と太平洋に面した地域です。

市内には、数多くの埋蔵文化財包蔵地が所在し、古くから当地で生活していた人々の歴史が残されています。現代の開発行為で失われる遺跡に対して、事前に発掘調査を実施し、記録による保存の措置をとることは現代の我々が果たすべき責務であります。

調査の記録をとりまとめた本書が、多くの市民の皆様に、郷土の歴史への理解を深める一助になれば幸いです。

最後になりましたが、千葉県教育庁教育振興部文化財課には、発掘調査の実施から本書の刊行に至るまでご指導いただき、厚くお礼申し上げます。また土地所有者及び関係者の皆様には、ご理解とご協力をいただきましたことに改めて感謝申し上げ、刊行の挨拶と致します。

平成31年3月

南房総市教育委員会
教育長　三　幣　　貞　夫

例　　言

1　本書は平成28年度に試掘、平成29年度に確認調査を実施した千葉県南房総市富浦町豊岡50番1に所在する岡本城跡の成果を収録した発掘調査報告書である。

2　試掘から確認調査まで千葉県教育委員会の指導のもと、南房総市教育委員会が実施した。

3　一連の調査及び整理作業期間は、下記のとおりである。

工事立会：平成28年10月7日～同年10月13日

試　　掘：平成28年11月29日～同年12月1日

確認調査：平成29年6月29日～同年7月4日

整理作業：平成30年12月3日～平成31年2月4日にかけて断続的に行った。

4　試掘・確認調査及び整理作業・報告書作成は、学芸員　岡山亮子が行った。

5　今回の調査に伴う記録類は、南房総市教育委員会で保管している。

6　事前協議から報告書刊行に至るまで、千葉県教育委員会をはじめとする関係諸機関の方々からご指導・ご協力をいただいた。また現地での作業においては、調査区の土地所有者のご協力をいただいた。記して謝意を表したい。

凡　　例

1　本書で使用したトレンチ名は、基本的に調査時に使用したものである。

2　挿図の縮尺は、各図に明記した通りである。

3　土層の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修の『標準土色帖』に照合して記載した。

目　次

序文・例言・凡例・目次
第１章　遺跡の概要…… 1
第２章　調査結果の概要…… 6
第３章　まとめ…… 12
参考文献

挿　図　目　次

第１図　遺跡位置図
第２図　周辺遺跡位置図
第３図　岡本城跡測量図
第４図　過去の発掘調査トレンチ配置図
第５図　トレンチ配置図
第６図　試掘ａ・ｃトレンチ土層断面図
第７図　試掘ｂトレンチ土層断面図
第８図　確認調査Ａ・Ｂ・Ｃトレンチ土層断面図
第９図　確認調査Ｄトレンチ土層断面図

図　版　目　次

図版１　工事立会状況／試掘前全景／ａトレンチ完掘状況／ｂトレンチ完掘状況／ｂトレンチ北壁セクション
図版２　確認調査表土除去状況／確認調査測量状況／Ａトレンチ完掘状況／Ｂトレンチ完掘状況／Ｂトレンチ東壁セクション／Ｃトレンチ東壁セクション／Ｄトレンチ完掘状況／確認調査終了時全景

報告書抄報

第１章　遺跡の概要

１　調査に至る経緯

学校寄宿舎の建て替えに伴い、平成27年度に事業者である一般社団法人東京学芸大学附属大泉小学校学校後援会菊泉会代表理事　鹿園直毅より埋蔵文化財の所在の有無について問い合わせがあった。工事予定箇所は、周知の埋蔵文化財包蔵地である岡本城跡に該当し、国史跡里見氏城跡岡本城跡の指定地に隣接していることを回答した。

事業の実施に先立ち、平成28年5月19日付けで「埋蔵文化財発掘の届出」の提出を受け、既存建物の解体工事の立会及び試掘を実施した。この試掘の結果、城郭に伴うと推測される人為的堆積がみられたため、事業者と市教育委員会生涯学習課とで協議を重ねた。しかし事業予定地の変更がなかったため、事業対象面積865.9㎡について確認調査を実施した。確認調査でも試掘と同様の調査結果が得られたため、埋蔵文化財への影響を与えない範囲で工事を実施することとし、市教育委員会と事業者の間で保存協定の協議書を交わした。

整理作業は平成30年12月3日から平成31年2月4日まで実施した。

２　地理的環境

安房地域は、清澄山から鋸山を結ぶ清澄山系以南のほぼ三角形の地域で、房総丘陵と大小の河川によって形成された沖積平野からなる。小規模な河川の下流部に小沖積平野が各地に展開している。岡本城は、標高約200～300mの山地から形成される安房丘陵の先端部に立地している。丘陵は平坦面が狭く、樹枝状に入り組んでいる。遺跡が所在する丘陵を挟むように北には汐入川、南には豊年川が流れている。

遺跡に面する海岸線は、地殻変動や海面水準の変化により海岸段丘が発達している。元禄16年（1703）の元禄地震発生時の海底は現在5～6mの高さに隆起し、さらに大正12年（1923）の関東大震災で海底が1～2m隆起しており、岩礁を形成している。そのため中世当時とは海岸線が異なる。

３　歴史的環境

岡本城周辺では旧石器時代から近現代までの遺跡が残されている。遺跡の立地として、大房岬に所在する遺跡と沖積平野に広がる遺跡、そして丘陵斜面に造られた横穴墓・やぐらに分けられる。ここでは岡本城と同時代の遺跡について概観する。

岡本城の北西約500mには宮ノ台遺跡（12）が所在している。宮ノ台遺跡は平成26年度に国道トンネル改築工事に伴い、県教育委員会により調査が行われた。事業範囲の測量調査と周辺部の踏査が実施され、平場や竪堀を確認している。標高の高い主郭部周辺や南方丘陵先端部に平場を多く配置する程度の簡易的構造であることや里見水軍の伝承等から、通常は見張り台的に機能し、戦時には集落（水軍）の避難施設となった簡易な城であった可能性を考察している。

他にも周辺には当城（とうしろ）・床城（とこしろ）・手代（てじろ）など地名が残されており、砦としての性格を持っていたと推測される城跡が点在している（床城城跡（15）、宮本手代遺跡（18））。

また丘陵先端部には、横穴墓を転用した供養施設であるやぐら（16他）も点在している。

第１図　遺跡位置図

1: 岡本城跡　2: 沢又横穴群　3: 大谷横穴群
4: 四反目横穴群　5: 和田横穴群
6: 磯津畑南横穴群　7: 谷南横穴群
8: 磯津畑北横穴群　9: 野ヶ谷横穴
10: 谷東横穴群　11: 谷西横穴群
12: 宮ノ台遺跡　13: 高田横穴
14: 山崎横穴群　15: 床城城跡
16: 下ノ坪やぐら群　17: 丹生原横穴群
18: 宮本手代遺跡　19: 吉田遺跡
20: 向原遺跡　21: 栗田条里　22: 青木遺跡
23: 青木やぐら群　24: 花園条里　25: 深名遺跡
26: 当城城跡　27: 当城やぐら群
28: 上前田遺跡　29: 大久保遺跡
30: 大武佐古墳　31: 磯の脇遺跡
32: 松原遺跡　33: 大房岬遺跡
34: 大房の御台場　35: 藤四郎台遺跡
36: 大房弁財天洞穴　37: 大房Ｂ洞穴
38: 大半津遺跡　39: 仲尾川北遺跡

第２図　周辺遺跡位置図（1/25,000）

4　過去の調査

岡本城跡はこれまでに範囲内容確認調査を2回、開発に伴う確認調査を1回、計3回実施している。

範囲内容確認調査は昭和60年と平成19年に実施している。

昭和60年の調査では、城の主要部とみなされていた頂上平坦部に調査区を設定し、布堀り状の柱穴列を検出した。遺物は岡本城が機能していた16世紀に位置づけられる貿易陶磁器やかわらけが出土した。部分的な調査であったため、建物の規模や棟数、新旧関係等は不明である。

平成19年の調査では、城内西側の主要な曲輪を調査し、中世の整地面や柱穴列を検出した。遺物は国産陶器、貿易陶磁器、鉄製品、銭貨、フイゴの羽口が出土した。出土遺物の中心となるかわらけは、16世紀後半に位置づけられる。この調査で最も特筆されるのは、主郭部南西側のトレンチから焼土を伴う整地層が確認されたことである。岡本城は天正16もしくは17年に「国主御殿」で火災があったことが文献史料で確認されている。火災の痕跡とみられる焼土が遺構を覆うような形で検出されたこと、16世紀後半に位置づけられるかわらけを伴うことから文献史料での記載を発掘調査で裏付けることができた。

開発に伴う確認調査は、平成12年に農作業用道路新設に伴い実施され、環状礫集中遺構や曲輪成形跡、堀状遺構など城郭造成に伴う遺構が検出された。

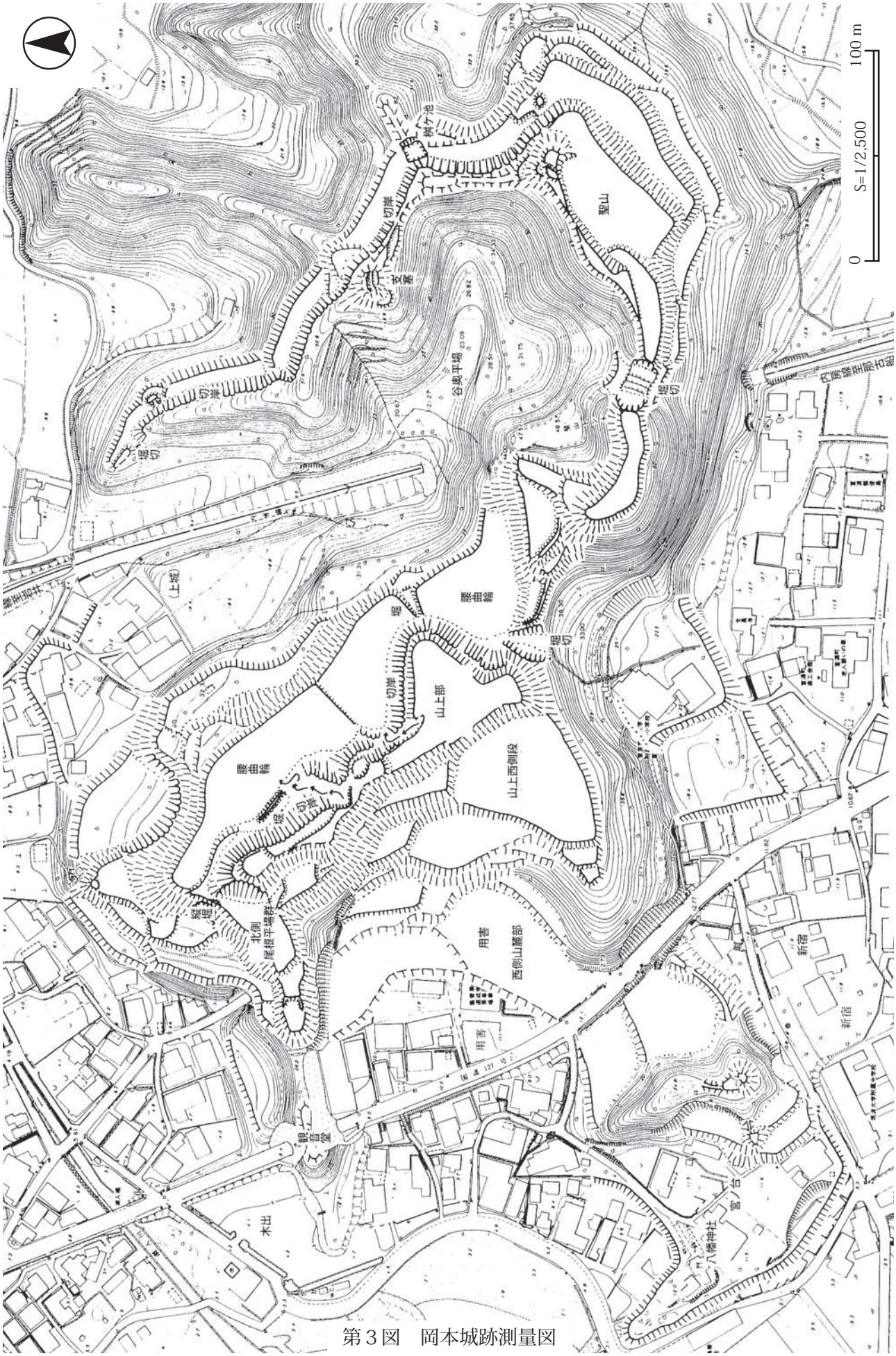
5　調査の方法

平成28年度に、既に地下に埋設されていた浄化槽等を撤去する際に工事立会を行った。

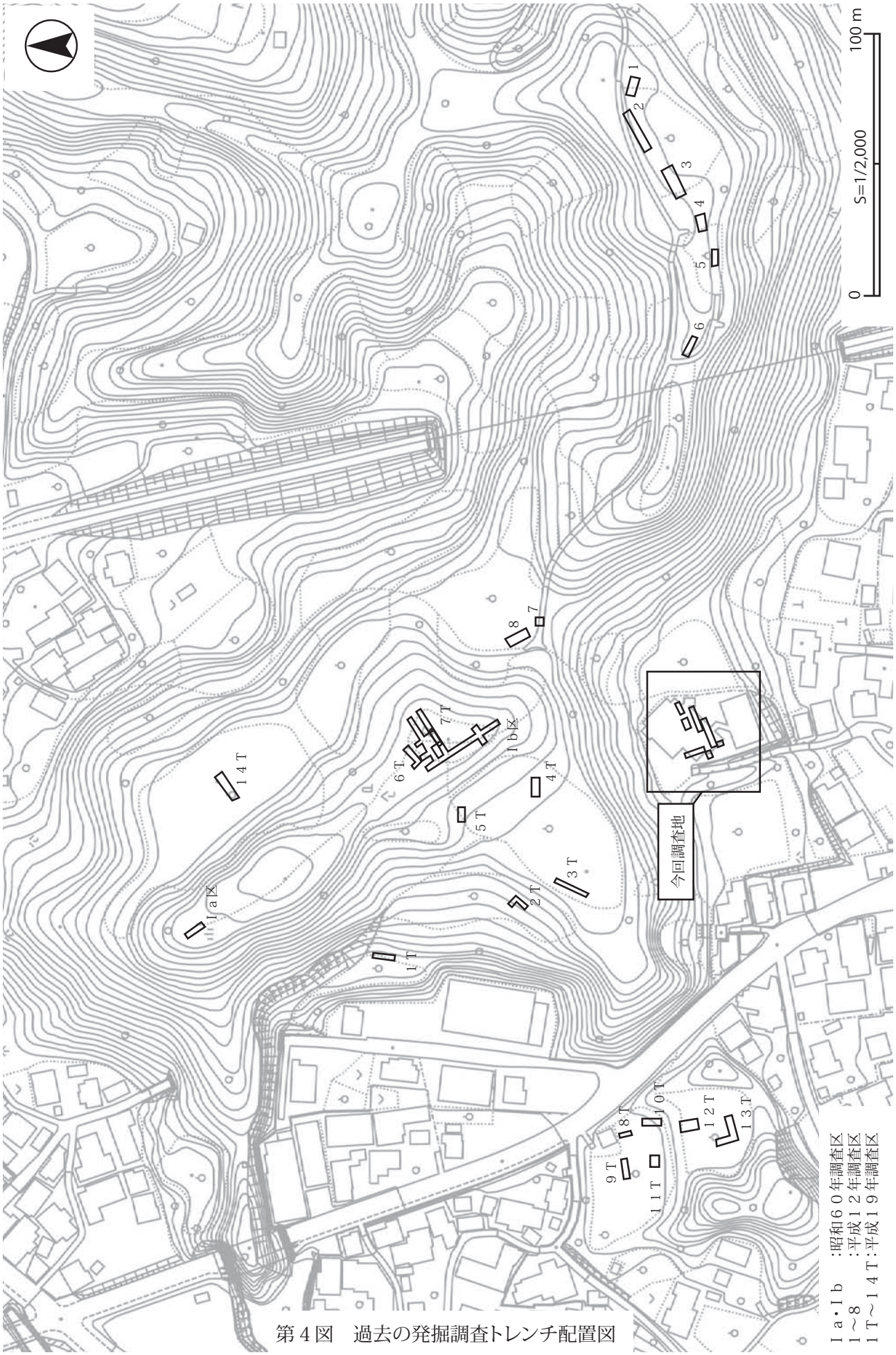
続けて実施した試掘は、埋蔵文化財所在の有無の確認のための試掘坑を東西方向に3ヶ所設定した。過去の測量成果を基にした任意の杭を打設し、この杭を用いて現地での平面図及び断面図の実測作業を行った。写真記録はAPS-Cサイズのデジタル一眼レフカメラを使用した。調査区域は、学校寮が建設されており、土地改変を受けていることを想定したため、現表土は重機で除去し、下層については層位確認を行いながら遺構確認した。

平成29年度に実施した確認調査では、試掘の結果を受けて、範囲や性格を確認するため東西方向3ヶ所、南北方向2ヶ所の計5ヶ所設定した。測量及び写真記録の方法は、試掘と同様である。調査の期間や費用の制約から、一部のトレンチのみ重機による表土除去後、鋤簾を用いて人力により遺構確認を行った。他のトレンチについては重機を使い、層位確認を行いながら実施した。

各調査終了後は、重機により排土を埋め戻して現状を復帰し、現地作業を終了した。


0
S=1/2,500
100 m
聖山
谷奥平場
堀切
腰曲輪
山上部
山上西側段
用書
西側山麓部
北側
尾根平場群
新宿
木出
八幡神社
(上城)

第３図　岡本城跡測量図



第４図　過去の発掘調査トレンチ配置図

第２章　調査結果の概要

試掘では3ヶ所（ａ～cトレンチ）、確認調査では4ヶ所（Ａ～Ｄトレンチ）のトレンチを設定した。

試掘は埋蔵文化財の所在の有無の確認のため、原則として地山層までの調査とした。確認調査は埋蔵文化財の範囲の把握のため、開発事業の掘削深度に合わせた調査を行った。

試掘に先行して実施した工事立会で、調査区北側は現表土直下で岩盤が検出することを確認したため、トレンチは調査区中央～南に設定した。

確認調査では、工事立会及び試掘の結果を受けて、調査区南側を中心にトレンチを設定した。

以下、トレンチごとに概要を述べる。

（1）試掘ａトレンチ

調査区東側に、1×5mの範囲で設定したトレンチである。

深さ約1mで地山である凝灰岩質の岩盤に達する。人為的痕跡は認められなかった。

（2）試掘ｂトレンチ

調査区中央東側に1×12mの範囲で設定したトレンチである。

重機を使用して掘削を開始したが、厚い堆積が確認された。このことから岩盤までの到達は困難かつ危険であると判断し、重機のアーム可動域で届く深度までの調査とした。セクションを観察すると、現表土下層から凝灰岩の含み方が異なる複数の層が、西方向に向かって流れ込むような堆積が確認された。

（3）試掘ｃトレンチ

現表土層下層に岩盤が検出されたａトレンチと人為的堆積が確認できたｂトレンチの間の状況を確認するため、ａトレンチの延長上に1×4.2mの範囲で設定した。

東側は深さ約1.2mで岩盤に達し、ａトレンチと同様の状況がみられた。岩盤は西側に潜り込むように傾斜していく。

（4）確認Ａトレンチ

調査区の南北方向の状況を確認するために1×8mの範囲で設定したトレンチである。

トレンチ北側は攪乱を受けていたが、南側では凝灰岩の含み方が異なる複数の層が、南方向に向かって流れ込むような堆積が確認された。

（5）確認Ｂトレンチ

調査区西側に2×3mの範囲で設定したトレンチである。

トレンチ全体にわたって凝灰岩の含み方が異なる複数の層の堆積が確認された。

（6）確認Ｃトレンチ

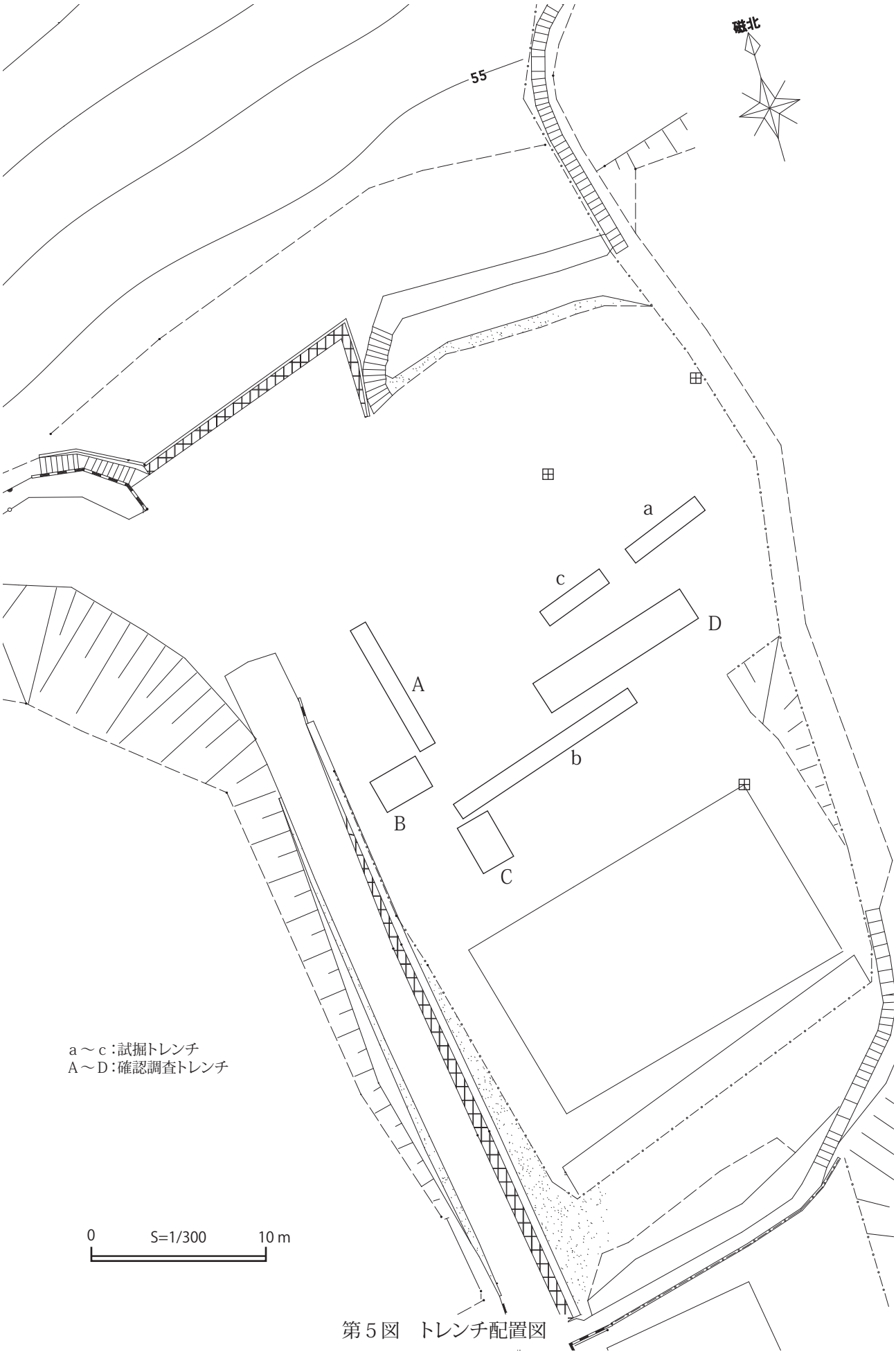
調査区南に2×3mの範囲で設定したトレンチである。

トレンチ全体にわたって凝灰岩の含み方が異なる複数の層の堆積が確認された。

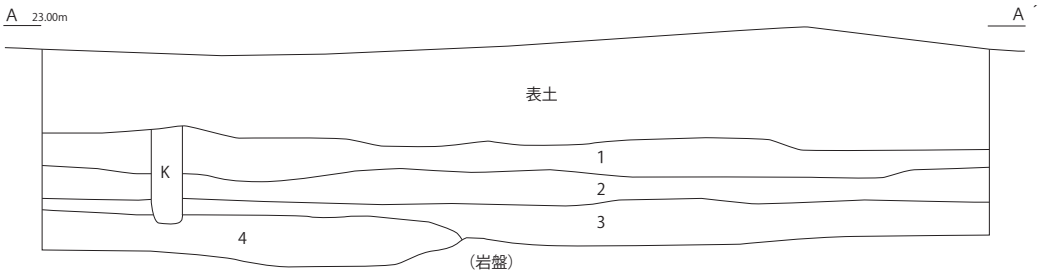
（7）確認Ｄトレンチ

ｂトレンチの延長上に2×10mの範囲で設定したトレンチである。

トレンチ全体にわたって凝灰岩の含み方が異なる複数の層が、西方向に向かって流れ込むような堆積が確認された。

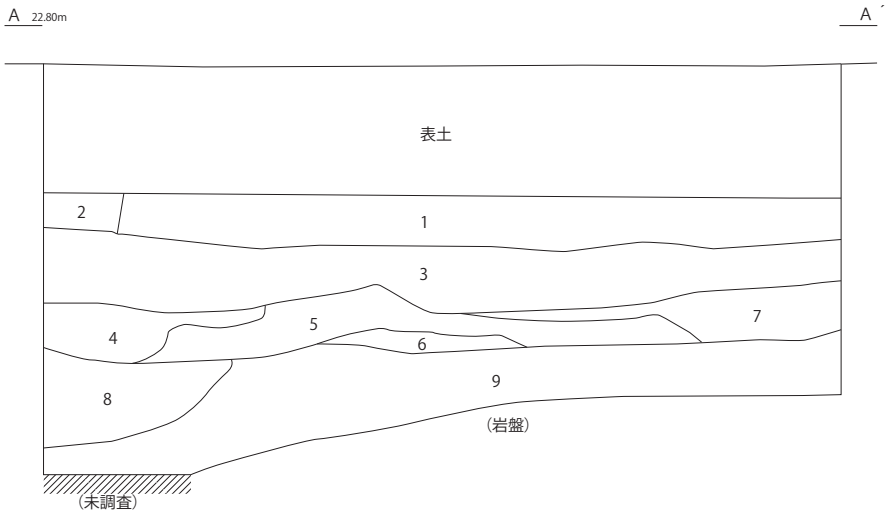


第５図　トレンチ配置図



試掘ａトレンチ　北壁セクション

1	茶褐色土	径５ｃｍ大の凝灰岩塊を少量含む。しまり、粘性強い。
2	にぶい茶褐色土	径３ｃｍの凝灰岩塊を少量含む。しまり強い。粘性あり。
3	にぶい黄褐色土	径３ｃｍの凝灰岩塊を多量含む。しまり、粘性あり。
4	黒色土	黒色土主体。径１０ｃｍ大の凝灰岩塊を極小量含む。しまり、粘性あり。

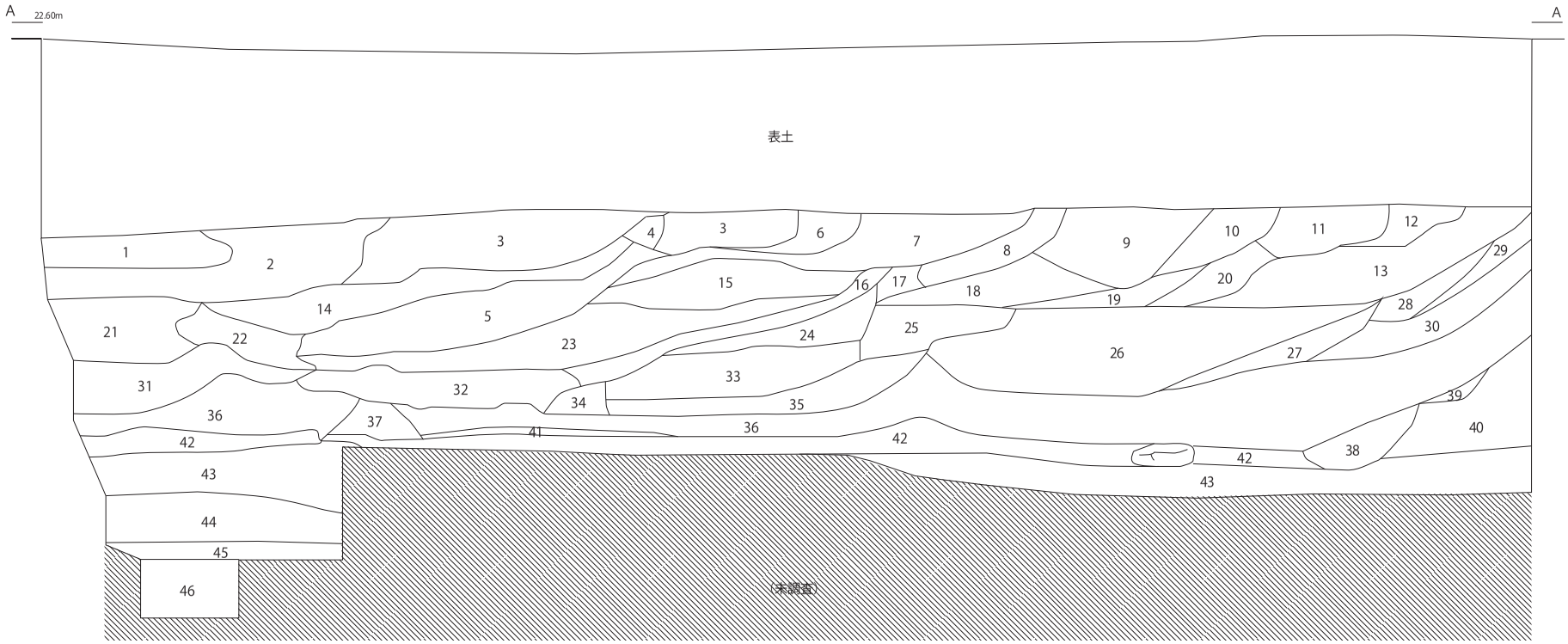


試掘ｃトレンチ　北壁セクション

1	茶褐色土	径１ｃｍの凝灰岩塊を少量含む。しまり、粘性強い。
2	黒褐色土	径５ｃｍ大の凝灰岩塊多量含む。しまり、粘性あり。
3	黒褐色粘土層	径３ｃｍの凝灰岩塊多量含む。しまり、粘性あり。
4	黒褐色土	黒褐色土からなる。しまりややあり、粘性あり。
5	黒褐色土	径５ｃｍ大の凝灰岩塊多量含む。しまりややあり、粘性あり。
6	にぶい黄褐色土	にぶい黄褐色土よりなる。しまり、粘性あり。
7	暗褐色土	径３ｃｍの凝灰岩塊少量含む。しまり、粘性あり。
8	茶褐色土	茶褐色土よりなる。しまり、粘性あり。
9	茶褐色礫層	凝灰岩質砂岩を主体とし、茶褐色土を少量含む。しまり、粘性あり。

0　S=1/40　1 m

第６図　試掘ａ・ｃトレンチ土層断面図

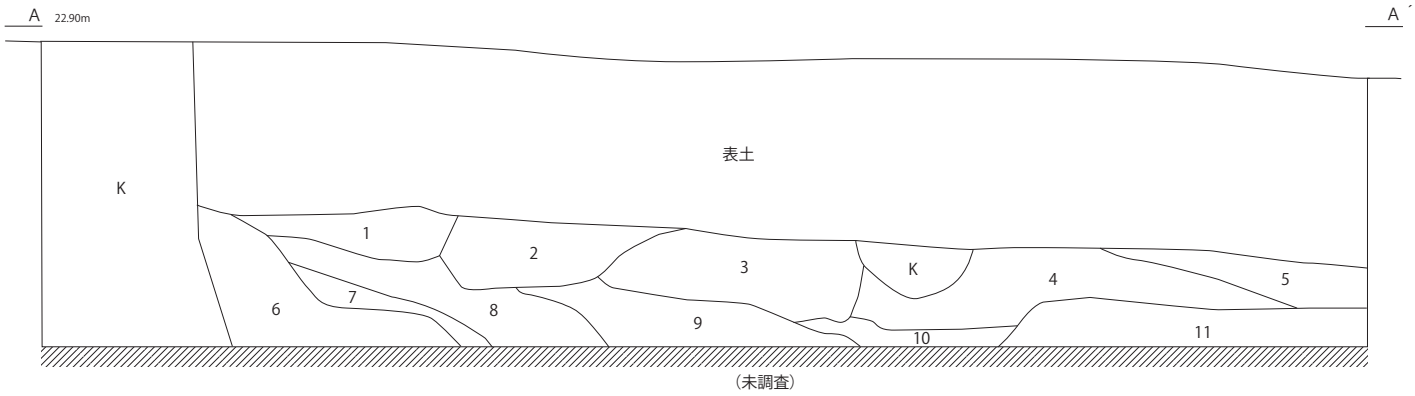


試掘bトレンチ　北壁セクション

1　茶褐色土　径3ｃｍの凝灰岩塊多量含む。しまり、粘性強い。
2　茶褐色土　径3ｃｍの凝灰岩塊極多量、黒色土少量含む。しまり、粘性ややあり。
3　茶褐色土　径1～3ｃｍの凝灰岩塊多量、黒色土少量含む。しまり、粘性ややあり。
4　茶褐色土　茶褐色土よりなる。しまり、粘性強い。
5　灰白色土　灰白色土主体。径1ｍｍの凝灰岩粒少量含む。しまり、粘性ややあり。
6　茶褐色土　径5ｃｍの凝灰岩塊少量含む。しまり、粘性ややあり。
7　灰白色土　径1ｃｍの凝灰岩塊多量含む。径3ｃｍの凝灰岩塊極多量含む。しまり、粘性あり。
8　黒色土　径5ｃｍの凝灰岩塊多量含む。しまり、粘性ややあり。
9　茶褐色土　径3ｃｍの凝灰岩塊多量、黒色土少量含む。しまり、粘性あり。
10　黒褐色土　径3ｃｍの凝灰岩塊多量含む。しまり、粘性あり。
11　黒褐色土　径3ｃｍの凝灰岩塊少量含む。しまり、粘性あり。
12　茶褐色土　径1ｃｍの凝灰岩塊少量含む。しまり、粘性あり。
13　暗褐色土　径3ｃｍの凝灰岩塊少量含む。しまり、粘性ややあり。
14　黒褐色土　径3ｃｍの凝灰岩塊少量含む。しまり、粘性ややあり。
15　灰白色土　径5ｃｍの凝灰岩塊少量含む。しまり、粘性ややあり。
16　黒褐色土　径1ｃｍの凝灰岩塊多量含む。しまり、粘性ややあり。
17　茶褐色土　径3ｃｍの凝灰岩塊多量含む。しまり、粘性ややあり。
18　黒褐色土　径3ｃｍの凝灰岩塊多量含む。しまり、粘性ややあり。
19　茶褐色土　径1ｃｍの凝灰岩塊少量含む。しまり、粘性あり。
20　青灰色土　径10ｃｍ大の凝灰岩塊多量含む。しまり、粘性あり。
21　茶褐色土　径1ｃｍの凝灰岩塊少量含む。しまり、粘性あり。
22　にぶい黄褐色土　径5ｃｍ大の凝灰岩塊多量含む。しまり、粘性あり。
23　黒色土　径5ｃｍの凝灰岩塊多量含む。しまり、粘性あり。
24　茶褐色土　径3～5ｃｍの凝灰岩塊少量含む。しまり、粘性あり。
25　黒色土　径5ｃｍの凝灰岩塊少量含む。しまり、粘性あり。
26　茶褐色土　茶褐色土主体。しまり、粘性あり。
27　黒色土　径3ｃｍの凝灰岩塊少量含む。しまり、粘性あり。
28　茶褐色土　径1ｃｍの凝灰岩粒多量含む。しまりややあり、粘性あり。
29　黒褐色土　黒褐色土主体。しまり、粘性あり。
30　暗褐色土　径5ｃｍの凝灰岩塊多量含む。しまり、粘性あり。
31　黒褐色土　径1ｃｍの凝灰岩粒多量含む。しまりややあり、粘性あり。
32　茶褐色土　径3ｃｍの凝灰岩塊極多量含む。一部から湧水。しまりややなし、粘性あり。
33　茶褐色土　径3ｃｍの凝灰岩塊多量含む。しまり、粘性あり。
34　茶褐色土　径3ｃｍの凝灰岩塊極少量含む。しまり、粘性あり。
35　にぶい黄褐色土　径5ｃｍ大の凝灰岩塊少量含む。しまりややなし、粘性あり。
36　にぶい黄褐色土　35層より明るい色調。径3ｃｍの凝灰岩塊少量含む。しまりややあり、粘性あり。
37　茶褐色土　径3ｃｍの凝灰岩塊多量含む。しまり、粘性あり。
38　茶褐色土　径3ｃｍの凝灰岩塊多量含む。しまり、粘性あり。
39　茶褐色土　茶褐色土主体。径5ｍｍの凝灰岩粒少量含む。しまりややあり、粘性あり。
40　黒色土　黒色土主体。径5ｍｍの凝灰岩粒少量含む。しまりややなし、粘性あり。
41　にぶい赤褐色礫層　径3ｃｍの赤褐色の凝灰岩塊よりなる。しまり、粘性強い。
42　黒褐色土　黒褐色土主体。しまり、粘性あり。
43　茶褐色土　茶褐色土よりなる。しまり、粘性あり。
44　青灰色土　径3ｃｍの凝灰岩塊極多量含む。しまり、粘性あり。
45　にぶい黄褐色土　茶褐色土主体。径1ｃｍの凝灰岩粒少量含む。しまりややなし、粘性あり。
46　黒色土　黒色土よりなる。しまりややなし、粘性あり。

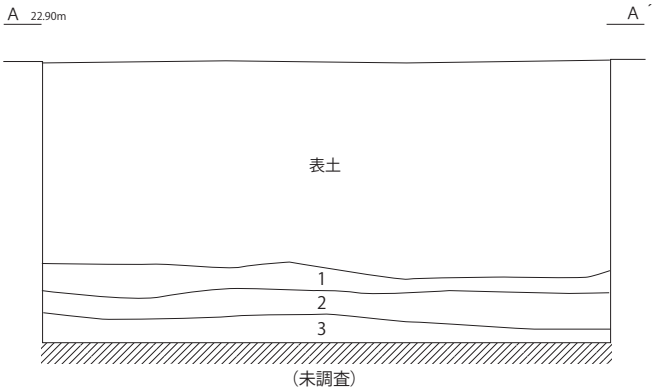
0　S=1/50　1ｍ

第７図　試掘ｂトレンチ土層断面図



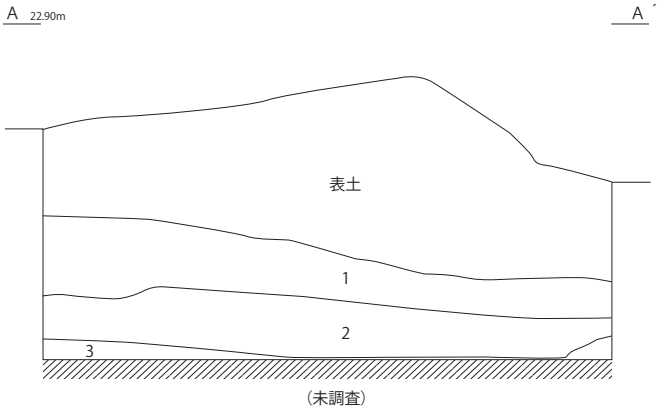
確認Ａトレンチ　東壁セクション

1	茶褐色土	径５ｃｍの凝灰岩塊少量含む。しまり、粘性ややあり。
2	にぶい黄褐色土	径１０ｃｍ大の凝灰岩塊多量含む。しまり、粘性ややあり。
3	黄褐色土	径１ｃｍの凝灰岩塊少量、径５ｃｍの凝灰岩質砂岩多量に含む。しまりややなし、粘性あり。
4	にぶい黄褐色土	径３～５ｃｍの凝灰岩塊多量含む。しまりややなし、粘性あり。
5	茶褐色土	径１～３ｃｍの凝灰岩塊少量含む。しまり、粘性あり。
6	明黄褐色土	径３ｃｍの凝灰岩塊少量含む。しまり、粘性あり。
7	明黄褐色土	径１ｃｍの凝灰岩塊極多量含む。しまりややなし、粘性あり。
8	明黄褐色土	径１ｃｍの凝灰岩塊極少量含む。しまりややあり、粘性あり。
9	茶褐色土	径５ｃｍ大の凝灰岩塊少量含む。しまり、粘性あり。
１０	茶褐色土	径１ｃｍの凝灰岩塊少量含む。しまり、粘性あり。
１１	にぶい黄褐色土	径３ｃｍの凝灰岩塊少量含む。しまり、粘性あり。



確認Ｂトレンチ　北壁セクション

1	茶褐色土	径１ｃｍの凝灰岩塊少量、径３ｃｍの凝灰岩塊少量含む。しまり、粘性ややあり。
2	黄褐色土	黄褐色土よりなる。しまり、粘性あり。
3	にぶい黄褐色土	径１０ｃｍ大の凝灰岩塊多量含む。しまり、粘性ややあり。

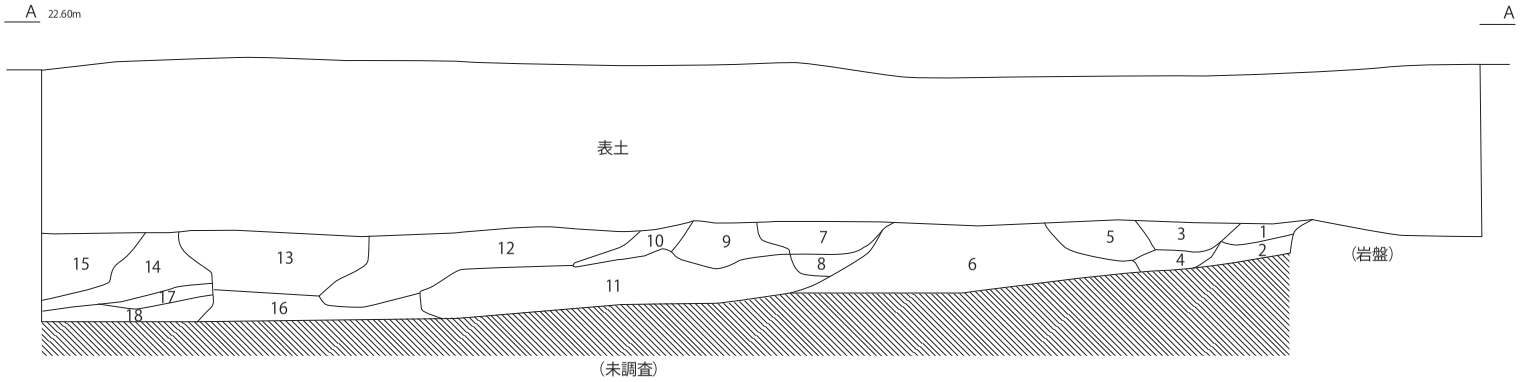


確認Ｃトレンチ　東壁セクション

1	にぶい褐色土	径５ｃｍ大の凝灰岩塊極少量含む。しまり、粘性あり。
2	にぶい褐色土	径３～５ｃｍの凝灰岩塊多量に含む。しまり、粘性あり。
3	茶褐色土	径１ｃｍの凝灰岩塊多量に含む。しまり、粘性あり。

0　S=1/40　1 m

第８図　確認調査Ａ・Ｂ・Ｃトレンチ土層断面図



確認Ｄトレンチ　北壁セクション

１　　黒色土　径１ｍｍの凝灰岩粒少量含む。しまり、粘性あり。
２　　黄褐色土　径３ｃｍの凝灰岩塊少量含む。しまり、粘性あり。
３　　茶褐色土　径１ｃｍの凝灰岩塊多量含む。しまりややあり、粘性あり。
４　　黒色土　径３ｃｍの凝灰岩塊多量含む。しまりややあり、粘性ややあり。
５　　茶褐色土　径１０ｃｍ大の凝灰岩塊多量含む。しまり、粘性あり。
６　　にぶい黄褐色土　径５ｃｍの凝灰岩塊極多量含む。しまり、粘性あり。
７　　黄褐色土　径３ｃｍの凝灰岩塊極多量含む。しまり、粘性あり。
８　　茶褐色土　径３ｃｍの凝灰岩塊極少量含む。しまりややあり、粘性あり。
９　　黄褐色土　径５ｃｍの凝灰岩塊多量含む。しまりややあり、粘性あり、
１０　茶褐色土　径５ｃｍの凝灰岩塊少量含む。しまり、粘性あり。
１１　黒褐色土　径３ｃｍの凝灰岩塊少量含む。しまり、粘性あり。
１２　黒色土　径３ｃｍの凝灰岩塊少量含む。しまり、粘性ややあり。
１３　茶褐色土　径１～３ｃｍの凝灰岩塊少量含む。しまり、粘性あり。
１４　にぶい黄褐色土　径３～５ｃｍの凝灰岩塊少量含む。しまり、粘性あり。
１５　茶褐色土　径１ｃｍの凝灰岩塊少量含む。しまり、粘性あり。
１６　茶褐色土　１３層より明るい色調。径１～３ｃｍの凝灰岩塊少量含む。しまり、粘性あり。
１７　にぶい黄褐色土　径３ｃｍの凝灰岩塊少量含む。しまり、粘性あり。
１８　茶褐色土　径１ｃｍの凝灰岩塊少量含む。しまり、粘性あり。

0　S=1/50　1ｍ

第９図　確認調査Ｄトレンチ土層断面図

第３章　まとめ

今回の調査では、事業地の南北及び東西に細長いトレンチを複数箇所開けることで、事業地全体の地形や堆積状況を確認することができた。

調査地である平坦面は、過去の調査研究において「①沖積地に面している。②規格性の強い方形プランをなす。③主郭に最も近い距離にある裾部の郭等」であることから、「里見氏の居館跡」の候補地と考えられてきた。しかし今回の調査では柱穴や堀跡、土塁跡などの遺構は検出できず、遺物の出土もなかった。そのため居館跡を裏付ける成果は得られなかった。

調査区北側は、現表土直下で凝灰岩質の岩盤が検出されることから、土砂流失などによる自然災害の影響や人為的な改変を受けていない元々の丘陵を生かした平坦面であるといえるだろう。調査区南側は、凝灰岩の含み方が異なる複数の層が流れ込むような堆積が確認された。人為的な堆積であり、平場の造成の可能性が考えられるが、遺物が伴わなかったため断言できない。平場造成であるならば主郭部周辺の曲輪や切岸、堀切を造成した際に排出された土を利用した盛土ではないだろうか。しかしながら土層を観察したところ焼土や炭化物など、凝灰岩以外の含有物はない。またややしまりが強い層も複数あったが、全体的に版築のような固く叩きしめたような造成の痕跡はみられなかった。

この平場は周辺よりも標高が高くなっており、現在も東京湾を臨むことができる。中世当時からの平場であれば主郭部の直下にあり、かつ当時は麓に営まれていたであろう集落を見渡すことが可能だったと推測される。城郭の中での位置づけなどは今後の発掘調査やその他各調査の成果の蓄積を待ち、検討していきたい。

岡本城跡は全域にわたって発掘調査が行われてきたとはいえない。その状況の中で、調査例が皆無であった城郭南側の様相を確認できたことは、成果の一つであるといえる。

－参考文献－

公益財団法人千葉県教育振興財団　2015『南房総市宮ノ台遺跡
　－一般国道127号久保トンネル改築工事に伴う埋蔵文化財調査報告書－』
財団法人千葉県文化財センター　1985『千葉県中近世城跡研究調査報告書　第６集
　－佐是城跡・岡本城跡発掘調査報告－』千葉県教育委員会
財団法人千葉県文化財センター　2004『東関東自動車道（千葉・富津線）埋蔵文化財
　調査報告書14　－木更津市笹子城跡－』
柴田龍司　2002「岡本城跡」『千葉県の歴史　資料編　中世１（考古資料）』千葉県
柴田龍司　2002「岡本城跡」『図説　房総の城郭』千葉城郭研究会
南房総市教育委員会　2008『千葉県南房総市岡本城跡確認調査報告書』
南房総市教育委員会　2010『千葉県南房総市岡本城跡調査報告書』

工事立会状況（東から）

試掘前全景（北東から）

a トレンチ完掘状況（南西から）

b トレンチ完掘状況（南東から）

b トレンチ北壁セクション（南から）

写真図版２

確認調査表土除去状況

確認調査測量状況

Ａトレンチ完掘状況（南から）

Ｂトレンチ完掘状況（西から）

Ｂトレンチ東壁セクション（西から）

Ｃトレンチ東壁セクション（北西から）

Ｄトレンチ完掘状況（北西から）

確認調査終了時全景（北から）

報告書抄録

ふりがな	ちばけんみなみぼうそうし　まいぞうぶんかざいはっくつちょうさほうこくしょ
書名	千葉県南房総市　埋蔵文化財発掘調査報告書
副書名	岡本城跡試掘確認調査報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者	岡山亮子
編集機関	南房総市教育委員会
所在地	〒299－2592 千葉県南房総市岩糸2489
発行年月日	西暦2019年3月28日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		世界測地系		調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
岡本城跡（おかもとじょうあと）	千葉県（ちばけん） 南房総市（みなみぼうそうし） 富浦町豊岡（とみうらちょうとよおか） 50番1	12234	20	35度 02分 48秒	139度 50分 18秒	〔試掘〕 2016年11月29日～2016年12月1日 〔確認調査〕 2017年6月29日～2017年7月4日	21.2 /865.9 30(86) /865.9	寄宿舎新築工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
岡本城跡	城跡	中世			中世当時に整地されたと推定される人為的堆積がみられた。

平成 31年 3月 28日　発行

千葉県南房総市
埋蔵文化財発掘調査報告書

岡本城跡試掘確認調査報告書

発行　南房総市教育委員会
千葉県南房総市岩糸 2489
印刷　有限会社コアコミュニケーション
千葉県館山市北条700-2